

ちぶ
知夫漁港広域漁港整備事業
たたく 多沢地区臨港道路橋梁工事（汐見橋） しおみばし

受賞機関 島根県隠岐支庁水産局

はじめに

知夫漁港は、島根半島の沖合約40kmにあり、隠岐諸島の中で最も本土に近い知夫村の南側に位置する村唯一の漁港である。県管理の第2種漁港では、最も利用漁船が多く、水産物の陸揚げや集出荷の拠点ともなっており、地域の重要な生活の基盤である。

湾口東部の多沢地区、湾奥部の郡地区を結ぶ道路は水産物資の輸送はもちろん、住民の日常の生活道路としての役割を併せ持っている。

しかし、この道路は幅員も狭いうえに線形も悪く、大型車はもとより一般車両の離合も困難な状況にあり、種々の活動に大きな支障をきたしていた。

この課題を解消するため、本臨港道路の整備を計画し、平成8年度に着手、平成16年度4月に供用開始の運びとなった。



多沢地区臨港道路橋梁工事（汐見橋）

事業の概要

- 延長
L = 160.0m
- 構造規格
道路種別 3種4級、設計速度30km/h、
幅員 5.5m (7.0m)
- 橋梁形式
バイプレストレスリング方式I桁橋L = 40.0m
立体ラーメン式橋台L = 12.0m (2 @ 6.0m)
両端張出し立体ラーメン高架橋L = 108.0m
(2 @ 54.0m)
- 工事期間 平成12年度～平成15年度



事業の特徴

海岸線に沿った僅かな平地に家屋と道路が寄り添うように位置しており、現道拡幅が困難なため海上ルートとなった。

臨港道路の計画位置が湾口部であり、多沢地区への海からの玄関口となること、また、周辺が大山隠岐国立公園であることから、景観に配慮し高架構造を採用した。

事業の効果

従前は困難であった離合等の問題も解消し、通行に掛かる時間、経費の削減等が図られた。

高架部の基礎形式は、鋼管杭+捨石併用方式であり、マウンドが潜堤の役目をし、その消波機能により港内の静穏度の向上が図られた。

景観に配慮した構造にしたことにより、知夫漁港のシンボリックな存在となっている。



おわりに

本臨港道路（橋梁）の開通は、人口700人余りの村にとって大きな事業の完成で、大きな喜びでもあった。開通式においても村を挙げて祝い、多数の方々にご参加いただいた。

今後は、この臨港道路（橋梁）を、近年、特に厳しい状況におかれている水産業の活性化に大いに役立てていただきたいと思います。

賛助会員 オリエンタル建設㈱、東洋建設㈱